



西之表市国上

き し が さ き

喜志鹿崎沖で発見された

旧日本軍機の一般公開

【日時】令和3年7月11日(日) 10:00~15:00

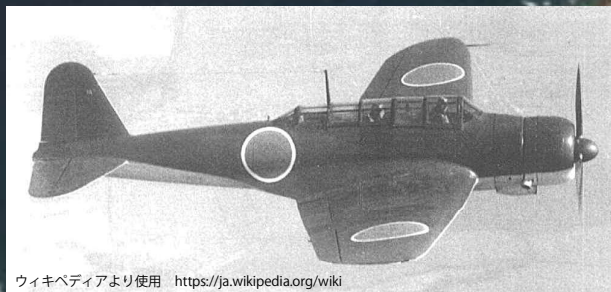
【場所】西之表市民体育館 駐車場



発見位置



喜志鹿崎灯台



ウィキペディアより使用 <https://ja.wikipedia.org/wiki>

きゅう ななしき かんじょう こうげき き

九七式艦上攻撃機

昭和12(1937)年に日本海軍に採用された航空母艦搭載用の3人乗り攻撃機。

16年12月8日の真珠湾攻撃では主力を担った。太平洋戦争末期には旧式化し、20年4月から始まった沖縄航空作戦では、串良航空基地(鹿屋市)から出撃した『特攻機』に多数使用された。

- 一号機…中島製 (B5N1) のちに「一一型」
- 二号機…三菱製 (B5M1) のちに「六一型」
- 三号機…中島製 (B5N2) のちに「一二型」

※今回の調査で「一二型」という型式は確認されているが、【機体番号】は確認されておらず、搭乗員等の特定には至っていない。

※日本での現存確認は、この1機のみ。アメリカとイギリスで1機ずつ機体の一部が保存されている。

浦田海水浴場

令和3年6月14日～27日（14日間）

『喜志鹿崎沖に沈む旧日本軍機周辺の遺骨・遺留品調査及び収集派遣』

調査団：日本戦没者遺骨収集推進協会（会長：尾辻 秀久 参議院議員）・厚生労働省

調査協力：西之表市・国有財産管理庁・藤田建設興業（潜水作業実施業者）



▲主翼（左翼）



▲尾翼（水平尾翼）

調査団は、無事に機体引き揚げを完了した。
今回の調査では、遺骨ならびに機体特定につながる部位の確認はできなかったが、鉛筆や工具のほか、無いと思われていた尾翼部分が見つかったことは、今後の詳細調査に期待がもてる結果であった。

機体は、大分県宇佐市（かつて搭乗員を養成する宇佐海軍航空隊があった）が取得の意志を示している。



▼鉛筆

西之表市の取組「フォトグラメトリ」

※数千枚もの写真を360度あらゆる角度から撮影し、合成することで3Dモデルを作成する技術。

出来上がった3Dモデルは、様々な角度や距離に動かし見ることができる。

展示等の活用を検討している。

▼3Dモデルで拡大したタイヤ部分



※海底で、ひっくり返った状態の機体